

公益社団法人 長野県林業公社

平成28年(2016年)11月1日発行

〒380-8567 長野市大字中御所字岡田30-16 (長野県林業センタービル2階)

TEL. 026-228-7211 FAX. 026-228-1200 URL. <http://www.nagarin.or.jp> E-mail. kousya@nagarin.or.jp

林業公社設立から50年を迎えて

当公社は、昭和41年の設立以降、自ら森林管理の出来ない森林所有者に代わり、木材の収穫時に収益を分け合う分収方式の契約を締結し、県下の森林資源の充実を図るとともに、地域の雇用や経済の振興に努めてまいりました。平成28年度現在、契約面積で約1万8千haの森林を造成しており、その公益的機能の評価額は524億円になります。

しかしながら、木材価格の低迷に起因する林業の採算性の悪化などにより多額の累積債務を抱えており、経営基盤の安定が喫緊の課題となっております。

このため、第1次(平成20年5月策定)及び第2次(平成25年4月策定)の経営改善集中実施プランにより、収入間伐の推進、分収率の見直しや長伐期化の推進など経営改善に向けた取組を実施してまいりました。

また、平成25年度に長野県が設置した「林業公社経営専門委員会」の報告を受けて、平成32年度を終期とする「経営改革プラン」を平成26年5月に策定し、職員数や給与見直しなどの組織改革や経営不適地の契約解除など経営改革を強力に推し進めているところです。

今後とも、所期の目的である森林資源の造成、国土の保全、水源のかん養等森林のもつ公益的機能の維持増進を図り、農山村地域の活性化と地域経済の振興に寄与することができるよう、役職員一丸となって努力してまいる所存です。

関係各位の皆様の一層の御理解と御支援をお願いいたします。



公益社団法人長野県林業公社
理事長 太田 寛

● 設立経過

昭和41年7月8日	社団法人 長野県造林公社として発足
(昭和47年4月10日)	スーパー林道管理事業開始
昭和57年12月1日	社団法人 長野県林業公社に名称変更
(昭和59年6月29日)	分収育林事業開始
昭和59年9月8日	森林整備法人に認定
(平成14年3月31日)	スーパー林道管理事業終了
(平成14年3月31日)	新規契約の申込の中止
平成25年4月1日	公益社団法人に移行

Contents

【巻頭】林業公社設立から50年を迎えて	1
【特集】写真でみる森林づくりの軌跡	2
【トピックス】平成27年度経営改革プランの進捗状況	3
平成27年度事業実績・平成28年度事業計画について	4
契約者の皆さまの声	5
【What's New】平成28年度定時総会・理事会の開催	6
林業公社からのお知らせ	6

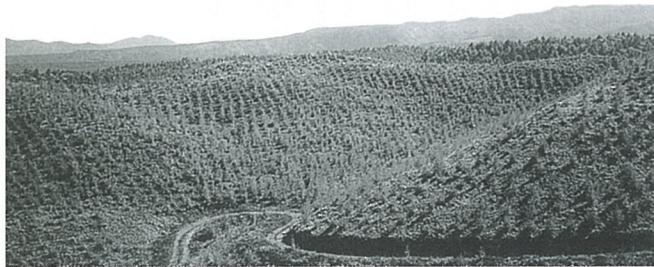
特集

写真でみる 森林づくりの 軌跡

長和町 造林契約地(カラマツ) 平成3年撮影



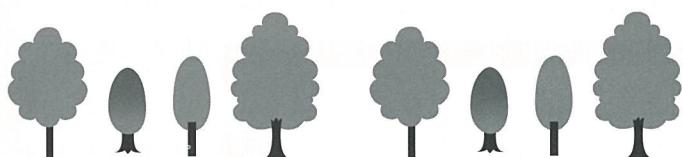
須坂市 造林契約地(スギ) 昭和58年撮影



大鹿村 造林契約地(カラマツ) 平成22年撮影

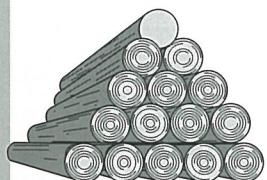
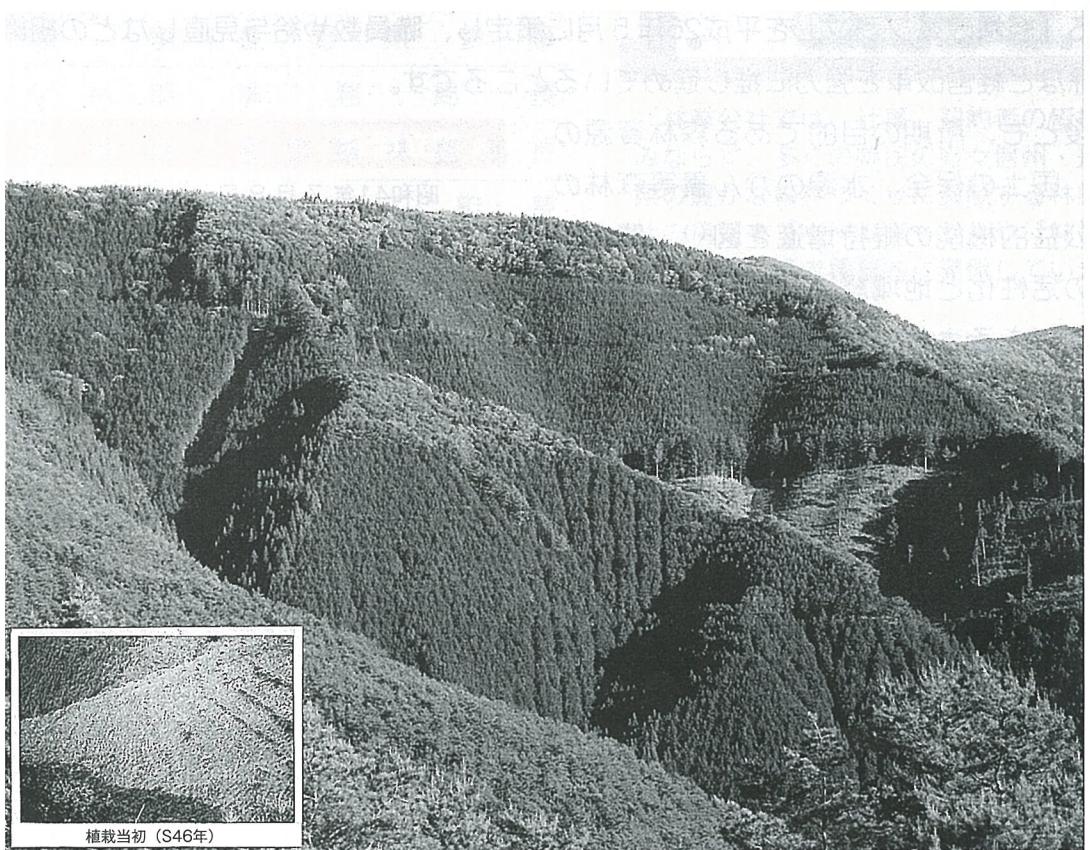


中野市豊田 育林契約地(スギ) 平成22年撮影



飯田市南信濃
造林契約地
(ヒノキ列状間伐実施)

平成27年撮影



平成27年度 経営改革プランの進捗状況

平成26年6月よりスタートした新たな「経営改革プラン」では、県との連結決算で160億円の県民負担の軽減に向け、組織改革と事業改革を両輪とした経営改善策に取り組んでいます。

公社では、この1年、このプランを着実に実行するため、給与の削減など身を切る努力をはじめとして、誠心誠意その目標達成に尽くしてまいりました。

その結果、年度目標を上回る成果を達成することができました。

● 組織の改革 *****

- プロパー職員を主体とした組織へ：企業的な経営感覚を持った公社に改革するため、プランに沿って平成27年度は2人の新規職員を採用しました。
- 職員給与の見直し：業務内容が類似した民間企業等の給与水準を参考に給与規定を見直し、これまでに比べ概ね10パーセント減額となる新たな給与規定を適用しました。

区分	H25(年度)	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	増減
プロパー職員	5	4	5	5	5	5	6	7	2
うち新規採用	0	0	2	1	1	0	1	1	6
県派遺職員	6	6	5	5	5	4	3	2	△4
嘱託職員	6	7	7	7	7	7	6	5	△1
計	17	17	17	17	17	16	15	14	△3

● 事業の改革 *****

■ 管理方針の見直し

- ◆ 施業地カルテを作成し、徹底して合理的な社営林の管理を行います。平成27年度は航空レーザー測量による基礎調査とともにカルテの作成を行いました。

		総数	H26(年度)	H27	H28
計画		976	265	406	305
実績		基礎調査終了	365	256	
カルテ作成			65	365	

- ◆ 森林G I Sの導入：平成26年度はシステムを導入、平成27年度からはデータ入力・更新を行い、社営林情報の一元的な管理を進めています。

■ 事業執行方法の見直し

- ◆ 地域と連携した施業集約化：効率的な路網整備や利用間伐を進めるため、周囲の民有林を含めた属地的な共同森林経営計画を策定することとし、平成32年度までの目標15団地を初年度（26年度）で達成し、引き続き、作成に努めます。
- ◆ 合理的な事業計画：日本政策金融公庫の有利子借入金額を減らし支払利息の軽減を図るために、市町村単位に策定していた森林整備合理化計画を広域単位（1団地1000㌶以上の特別計画）に変更します。平成28年度目標を初年度（H26）で達成しました。（広域9、通常1）

■ 長伐期化及び分収率見直しの推進（第2次プランから継続）

- ◆ 長伐期化：良質な木材と材積量の増大に向けた長伐期化と分収交付金支出の軽減を図るため、契約変更手続きを進めます。

現状	総数	変更済	変更残	プランの 計画・実績	年度	26(年度)	27	28	29	30	31	32	計
	1,191	1,108	83		計画	12	12	12	12	12	12	12	83
					実績	17	21						

分収率の見直し：現状45/55,40/60を30/70に見直し、公社収益の増加を図ります。

現状	総数	変更済	変更残	プランの 計画・実績	年度	26(年度)	27	28	29	30	31	32	計
	1,049	195	854		計画	43	43	43	43	43	43	43	300
					実績	84	77						

■ 森林整備・路網整備の実施（第2次プランから継続）

- ◆ 森林整備の着実な実行と、低コストな木材生産を見据えた路網整備を実施します。

【路網開設】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	計
計画	3,950	4,500	5,000	5,000	5,000	4,500	3,500	31,450
実績	9,093	1,208						

特集

平成27年度事業実績・平成28年度事業計画について

● 林業公社の事業方針について

- 当公社は、森林整備法人として、契約地の森林の適切な保育及び管理業務を計画的に実施するとともに、県土の保全や水源かん養等、森林のもつ公益的機能の維持増進に努めてまいります。
- また、平成26年度、新たに策定した「経営改革プラン」沿った事業を計画し、その実行に職員が一丸となって取り組み、積極的な経営改革を図ってまいります。

事業内容 (ha)	27年度実績	28年度計画
復旧造林	—	—
補植	—	—
下刈	—	—
除伐	36	50
除間伐	293	276
間伐	20	42
つる切り	37	70
くず枯殺	—	—
枝打ち	107	81
獣害防除	518	545
作業道開設等(m)	1,208	5,000
分収林契約 適正化事業	長伐期変更契約 に係る業務 ・長伐期変更契約 に係る業務 ・森林の評価業務	
事業費(千円)	195,400	247,735



獣害防除

大切な森林をツキノワグマやニホンジカによる皮剥被害から防ぎます。



ツキノワグマによる皮剥。
せっかく育てた木も
枯れてしまいます。

間伐後、軟質
プラスチックを
巻き付け、獣害対策を
行います。



獣害被害地は
テープ巻による対策を
早期に実施します。



森林整備

分収林契約地の適切な森林整備を行うとともに、利用間伐を推進し、林木の成長促進・間伐材の有効活用・収入の確保に努めます。



高性能林業機械で効率的な間伐が進む！

高山村：紫子萩団地



トピックス

公社に対する意見・要望など社員や契約者の皆さまの声を直接お届けするコラムです！！



今回は、伊那市高遠町の四日市場生産森林組合長の北原 寿さんにお話を伺いました。北原さんは、木材加工業を経営されており、パレット等の製造を通じて、地元材を積極的に使用しておられます。

四日市場生産森林組合は、集落の総代が管理する山林とともに3団地を契約し、集落全体で地元の森林を管理しておられます。



北原 寿さん

公社：四日市場生産森林組合や集落の山林はどのような状況か教えてください。

北原： 生産森林組合の山は約15haあり、ほとんどが公社にお願いしている。また集落の山林は約52haで、公社以外に5haほどある。公社の山はカラマツ、アカマツ、トウヒを植えていただいた。公社以外の山は、カラマツとアカマツが主で、広葉樹が1haほどある。

基本的には、他の集落と共有を解消した時期によって、集落の山と生産森林組合の山に区分されたように聞いている。

公社：契約時（昭和41、50年）の状況などはどうでしたか。

北原： このころは、木材生産が盛んに行われていた。私は、山林は所有していないが、家業の関係で、材料確保のため、若いころは、山作業を行っていた。そのころは、この藤沢川流域では木材生産が活発に行われ、活況を呈していた。広葉樹の伐採が一巡すると、将来に備え、公社と分収林契約をした。

公社：集落の山林（管理者は伊那市長）との連携は、どのようにになっていますか。

北原： 生産森林組合の組合員と集落のメンバーは、ほぼ一致しており、その結束は強いと思う。山林は集落の財産と考え、公社以外の山は、全員でチェンソーを持って、毎年森林整備を行っていた。しかし、木が大きくなると、やはり素人の作業は危険になってきて、怪我人も出たことから、10年前から、作業はやめ、見回りを中心に活動している。

公社：公社との分収林契約についての感想、これからのお公に期待することなどありますか。

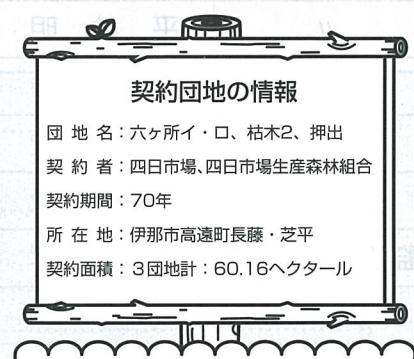
北原： 地区の高齢化が進み、作業、管理がなかなか困難になってきている。山林を荒らさないで、土砂災害を未然に防ぐ意味からも、山林を維持・管理していただける、公社の分収林制度は大変ありがたい。過疎が進んでも山林は残る。郷土を守る意味からも引き続き、森林の手入れをお願いしたい。



枯木団地



押出団地



契約団地の情報

団地名：六ヶ所イ・ロ、枯木2、押出
契約者：四日市場、四日市場生産森林組合
契約期間：70年
所在地：伊那市高遠町長藤、芝平
契約面積：3団地計：60.16ヘクタール

What's New

平成28年度 定時総会を開催しました!!



平成28年6月9日㈭、「平成28年度定時総会」は、社員等63人の参加のもと長野県林業センタービルで開催しました。議事としては、平成27年度業務報告及び決算、平成28年度事業計画及び収支予算、経営改革プランについて報告がなされました。

引き続き、理事会を開催し、事務の簡素化のため、決議の省略の方法について決議をしました。

●長野県林業公社役員名簿(平成28年総会時)

役職名	氏名	他の職名
理事(理事長)	太田 寛	長野県副知事
理事(副理事長)	河内 孝	長野県参事
理事(専務理事)	田中 裕二郎	事務局長
理事	池田 秀幸	長野県林務部長
//	茂木 祐司	御代田町長
//	羽田 健一郎	長和町長
//	小田切 康彦	宮田村長
//	柳島 貞康	大鹿村長
//	貴舟 豊	大桑村長
//	中村 武雄	朝日村長
//	平林 明人	松川村長
//	久保田 勝士	高山村長
//	富井 俊雄	野沢温泉村長
//	滝澤 栄智	長野県森林組合連合会代表理事専務
監事	内村 孝英	税理士
//	大平 巍	天龍村長
//	田上 正男	上松町長

林業公社からのお知らせ。

林業公社では、社員、契約者の皆様のみならず、多くの県民の方々信州・長野県の豊かな森林づくりに貢献する林業公社の情報を「ホームページ」や「林業公社だより」等で積極的に発信していきたいと考えています。

林業公社へご意見、ご要望など、FAXやE-mail等で、お寄せください。

美しい信州の森林を育むナビ
長野県林業公社

TOPICS
平成28年6月11日に開催された定時総会及び理事会において全役員が就任されました。
平成27年4月1日より理事長に太田寛(長野県副知事)が就任しました。
平成26年4月2日に「継続した経営改進の推進」を継続とした新たな「経営改革プラン」がスタートしました。
平成25年4月1日に長野県林業公社は「公益社団法人」として新たにスタートしました。
平成25年3月22日に長野県知事より「公益社団法人」として認定されました。

EVENT
平成28年度定時総会を6月11日開催しました。
平成27年度第1回理事会を6月11日開催しました。
平成27年度第2回理事会を6月11日開催しました。
平成27年度第3回理事会を6月24日開催しました。

お問い合わせ
TEL: 026-857-7211 FAX: 026-228-1200 Email: kassai@nagano-forest.go.jp

ぜひ、ご覧下さい！！